

合同シンポジウム

● プログラム

9:00 あいさつ

9:05 趣旨説明
(モデレーター: 連 健夫)

● 第一部

9:15 環境 (安田幸一)
「未来に向けてストックをつくる」
保存再生 (篠田義男)
「保存再生活動の可能性」
災害 (松下 督)
「災害への備えと復興」
まちづくり(連 健夫・松本 昭)
「良質な建築を作る仕組」

● 第二部

10:40 コメント
塚本由晴+大島芳彦
11:00 ディスカッション
塚本由晴・大島芳彦
彦根アンドレア・今野照夫
倉方俊輔・松本昭
11:55 まとめ
12:00 終了

コメンテーター



塚本 由晴

つかもと・よしはる 東京工業大学卒業後、バリ建築大学ベルビル校、東工大大学院博士課程、1996年博士(工学)。1992年に貝島桃代とアトリエ・ワンの活動を始める。ふるまい学を提唱して建築デザインのエコロジカルな転回や、建築の脱産業化を目指す。現在東京工業大学大学院教授。主な著書に、『メイド・イン・トーキョー』(鹿島出版会)、『ベット・アーキテクチャー・ガイドブック』(ワールドフォトプレス)、『図解アトリエ・ワン』(TOTO出版)、『Behaviorology』(Rizzoli New York)、『WindowScape』(フィルムアート社)、『コモナリティーズ ふるまいの生産』(LIXIL出版)などがある。



大島 芳彦

おおしま・よしひこ 1970年東京生、武蔵野美術大学卒業、設計事務所を経て、現在、ブルースタジオ専務取締役、リノベーション活動における第一人者、リノベーションスクールの活動で2015年日本建築学会教育賞、ホシノタニ団地のリノベーションは2016年度グッドデザイン金賞(経産大臣賞)、建築を不動産屋経営も含め多角的に捉えている実践的建築家。

ストックの再評価 + 地域ポテンシャルを活かす

高度成長社会において通
用していた都市や建築に対す
る考え方は、縮小社会において
様々な歪を生み出し成り立たなく
なっています。地域のポテンシャルを活か
すことは、既存のストック、すなわち街や建物、人や

文化、歴史を活かすことであり、それには新たな捉え方や方法が求められます。これを具体的にドライブするためには、環境・保存再生・災害・まちづくりの分野横断的な視点で深彫りすることが大切です。この手がかりとして、このシンポジウムでは「仕組、技術、作品」から論じると共に、建築家の能力をどのように活かすべきかといった、今後の職能論、建築家の職域をどのように拡げていくか、を浮き彫りにします。



の視点で考える。

2018年 9月15日(土)

AM9:00~12:00

場所

明治大学
駿河台キャンパス
アカデミーホール
東京都千代田区神田駿河台1-1

問合せ

公益社団法人
日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部
☎ 03-3408-8291

参加
無料

申込
不要

※どなたでも参加できますが、JIA会員は参加登録をお願いいたします。

現在の都市問題として、個人のストックが社会のストックになっていない状況があり、その原因として経済性や効率を優先する中で、スクラップ & ビルドが繰り返されていたことに問題があることから、JIA では、2015 年金沢大会において、環境・保存再生・まちづくりの 3 会議合同で、ストック活用をテーマにシンポジウムを行いました。実行力のある活動をするためには分野横断的な視点が求められると共に、他会との協働が必要なこと、2016 年大阪大会では、災害も加えた 4 会議主催でシンポを行い、良質な建築を作るためには仕組づくりが大切であることが共有できました。2017 年の四国大会では、各会議から具体的な仕組づくりについての実践報告があり、行政の良きパートナーとしての専門家の在り方について議論を深めました。今回は、地域ポテンシャルを活かす/ストック活用の再評価をテーマに、塚本氏と大島氏をコメンテーターに迎え、議論を深めると共に、何らかの提言に繋がります。

モデレーター

登壇者



連 健夫(むらじ・たけお)

東京都立大学大学院修了、建設会社10年勤務の後、1991年渡英、AAスクール大学院、同校助手、1996年帰国、事務所開設。作品:はくおう幼稚園おもちゃライブラリー(栃木県建築景観賞)、荻窪家族レジデンス(2016年度グッドデザイン賞受賞等、著書:「心と対話する建築」家」早稲田大学非常勤講師、港区まちづくりコンサルタント、港区景観アドバイザー、JIAフェロー、日本建築まちづくり適正支援機構代表理事

登壇者



安田 幸一(やすだ・こういち)

建築家、東京工業大学教授、安田アトリエ主宰 1958年神奈川県生まれ。1983年東京工業大学大学院を修了し、1983~2002年日建設計に勤務。1988~1990バーナード・チュミアーキテクト・NYに勤務。1989年にイェール大学大学院修了。「ポーラ美術館」で村野藤吾賞・日本建築学会賞を受賞。「東京工業大学附属図書館」「東京造形大学CS PLAZA」等の建築作品がある。2016年以降JIA環境建築賞審査委員長を務める



篠田 義男(しのだ・よしお)

(株)篠田義男建築研究所代表、1946年千葉県船橋市生まれ。1969年明治大学工学部建築学科卒(ディプロマ金賞)、1971年明治大学大学院修士修了、1971~1990年坂倉建築研究所、1991年篠田義男建築研究所設立。明治大学理工学部、東京家政学院大学講師等。日本建築家協会優秀建築選・茨城県建築文化賞/日田市滑川団地、日本建築家協会優秀建築選・鉄道建築協会賞/小田急はるひの駅・新百合ヶ丘駅他、国内外で設計。JIAフェロー



松下 督(まつした・あつし)

法政大学建築学科卒業。日設計入社。国内外で設計にかかわっている。2011年東日本大震災を契機にBCP室長を兼務し、自治体・企業のBCPコンサル・津波避難施設等の設計を行なっている。2016年よりJIA関東甲信越支部災害対策委員長。受賞:「宇宙開発事業団つくば宇宙センター」、「青山学院大学相模原キャンパス」で建築学会作品選選集、エコビルド賞、北米照明賞など



松本 昭(まつもと・あきら)

(株)市民未来まちづくりテラス代表取締役 一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団専務理事、(一社)チームまちづくり、(一社)建築まちづくり適正支援機構にも関与。東京大学、法政大学非常勤講師。1954年生 東京都立大学卒、東京大学大学院博士課程修了。鎌倉市、国分寺市在職時代から今日まで、市民、行政、専門家、事業者等の協働・共創により、地域の価値、地域の良識を生かす「まちづくり条例」「景観条例」等の制定を多数主導。博士(工学)、技術士(都市及び地方計画)、一級建築士、マンション管理士他



彦根 アンдреア (Andrea Held)

ドイツ・コンスタンツ生まれ。シュトゥットガルト工科大学を首席卒業後、1998年来日。團・青島建築設計事務所、磯崎新アトリエを経て1990年「彦根建築設計事務所」を設立(彦根昭と共に)する。2008年「IDIC PS 岩手インフォメーションセンター」(一般部門:最優秀賞)と2010年「風・Fuu」(住宅部門:優秀賞)でJIA環境建築賞を受賞。



倉方 俊輔(くらかた・しゅんすけ)

1971年東京都生まれ。1994年早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学大学院修士課程・博士課程修了後、2011年大阪市立大学大学院理工学研究科准教授。博士(工学)。著書に『東京モダン建築さんば』『ドクノモン』『吉阪隆正とル・コルビュジエ』、監修・解説書に『伊東忠太建築資料集』ほか。2017年日本建築学会賞(業績)、2018年日本建築学会教育賞。JIA近畿支部副支部長、住宅遺産トラスト関西、東京建築アクセスポイント理事。



今野 照夫(こんの・てるお)

元北上総合支所復興推進監。石巻市職員。1961年生まれ。高校卒業後北上町役場に就職、石巻市合併前は「北上町史」編集にたずさわる。震災当日は、北上総合支所で津波にのみまれるが奇跡的に助かる。震災後、北上総合支所で復旧・復興業務に当たる。2014年、北上総合支所から石巻市本庁へ異動。

アクセス



明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン3F アカデミーホール

- JR中央線・総武線、東京メトロ丸の内線/御茶ノ水駅
下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅
下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線/神保町駅
下車徒歩約5分

TOKY 2018

JIA 建築家大会 2018 東京

<https://jia2018tokyo.com/>

本シンポジウムは上記大会の公式行事です。